街 角 レ ポ ー ト

このコーナーでは、県内外のまちづくりやちょっと素敵なまちなかのお店や施設などをレポートし皆さんにご紹介します。

川越ルポ

去る7月10日、川越市主催の「2002都市景観シンポジウム」に参加した際、川越のまちを見て歩いた印象をレポートします。

●川越について

川越市は東京都心から北西約３０ｋｍに位置し，電車で約１時間の距離にあります。市の面積は約１０９ｋｍ^2，人口は約３３万人です。茨城県でたとえるなら，取手市，守谷市，藤代町を合わせたほどの面積ですが，人口ではおおよそ，その２倍になります。

●川越の歴史

１４５７年に川越城が築かれ，その後１６世紀に入り，本格的な城下町建設がはじまったようです。その後２度の大火をうけ，復旧されたのが現在に見られる蔵造りの町並みです。２度目の大火は明治時代であり，当時の時代の建築様式の主流は，東京の官庁建築や，銀座通りなどで盛んに建てられたレンガ造りでした。

その様な時代に，なぜ川越では蔵造りなのか？第一にレンガ職人が東京の仕事に追われ，地方まで手がまわらなかったことも考えられますが，土蔵造りが実際に焼け残ったことを経験し，その耐火性に優れていることが蔵造りを促進させたのかもしれません。

時の鐘（残したい日本の音風景百選）
ー400年近く前から、城下町に時を知らせてきた川越のシンボル

●町並みの保存

川越の町並みの保存はいくつかの側面を持っています。一つには，首都圏ではこのような伝統的町並みが壊滅状態になってしまい，数少ない町並みだということです。

二つ目は，その歴史的町並みが，生活の一部として機能していることです。目だけで感じる町並みではなく，肌でも感じられる町並みとして活きたかたちで保存されています。

平成１１年４月に伝統的建造物群保存地区として都市計画決定されたことも，この町並みを残していく，一つの要素になっているのではないでしょうか。

重要伝統的建造物群保存地区の一角
ー千本格子のはめ込まれた窓が美しい
ボンネットバスも小江戸情緒たっぷり

●町を歩いてみて

　このまちの建物は，一見すると古くからの蔵造りばかりに感じられますが，その中には現代の建築物も含まれています。このような新しい建物も町並みにとけ込めるよう工夫されており，町に住む人々の気持ちが一つになっているように感じました。
　このように快く感じられる町並みをつくっていくには，そこに住む一人一人の気持ちが大切ではないでしょうか。

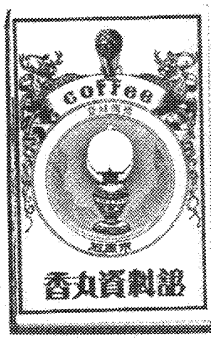
※川越市へのアクセス
・池袋から東武東上線急行で３２分，川越駅下車
・新宿から西武新宿線快速急行で４７分，本川越駅下車
・有楽町から地下鉄有楽町線で６０分，川越駅下車
（編集委員　M．O）

菓子屋横丁
10数件が工夫を凝らした駄菓子類を製造販売しており、ノスタルジックな雰囲気に多くの人手で賑わう

石岡の「香丸資料館」

　石岡の駅前通を少し入ったところに「香丸資料館」というお店を見つけました。
　漆喰塗りの土蔵を改造した建物で、１Fは喫茶店、２Fは市民ギャラリーとなってます。
　店内は蔵の梁が伸び、木のぬくもりを活かしたテーブルがセットされ、伊万里焼や骨董家具などが品良く配置された気持ちの良い空間でした。歴史を刻んだ蔵が醸し出す落ち着いた大人の雰囲気が漂います。街並みの景観づくりに一役買うとともに、２Fのギャラリーは絵画、彫刻、写真など誰でも利用できるギャラリーで、市民の憩いの空間にもなっています。
　「香丸資料館」
　石岡市府中1-4-14　TEL　0299-23-5916
（編集委員　Y．I）

蔵を活用した喫茶店（漆喰壁）



お洒落なデザインのマッチ